

看護研究の実例 - 質問紙調査の概念枠組みに焦点をあてて -

内田 雅子 Masako Uchida

大分県立看護科学大学 専門看護学講座 成人・老人看護学 Oita University of Nursing and Health Sciences

2003年2月3日投稿, 2003年2月24日受理

キーワード

看護研究、研究課題、理論的枠組み、概念枠組み、質問紙調査

Key words

nursing research, research problem, theoretical framework, conceptual framework, questionnaire

1. はじめに

筆者は病院の看護研究グループをサポートしていた折りに、研究メンバーが研究課題や仮説を明確にする前に質問紙を作成しているという事態にしばしば遭遇した。こうした事態が生じる背景には、普段の看護業務の進め方が影響しているのではないか。看護師は業務を円滑に進めるため、問題のとらえ方を一々疑問視せずに逸早く解決方法を見出そうと努めていると思われる。このような思考方法は、暗黙のあるいは明文化された臨床の規範を保つことに焦点がおかれるため、現象を批判的に見る姿勢を育て難しくしている。

看護の実践ならびに効果の評価は、現象をどう見るかによって違ってくる(中西, 1988)。看護研究も、研究者が現象をどのように見るかによって方向づけられる。特に慢性病者の看護をめぐる現象は、非常に複雑である。こうした現象を説明する道具を探しあてること、すなわち概念枠組みの作成が重要である。そこで、臨床経験から生じた疑問を実証可能な問いにするまでのプロセスを、筆者が過去に実施した質問紙調査の概念枠組みをとりあげて説明する。

2. 研究課題の明確化

研究課題を明確に記述することは研究の核心であるが、これは初心の研究者が最初に直面する困難である。「よい研究はよい疑問によるところが大きい」といわれる(Polit and Hungler, 1987)。しかし看護のような複雑な現象から、「問題を発見し明確な形に整理していくことは、問題を解くこと以上に難しい」ことである(佐藤, 2002)。日々の看護実践から生じた疑問を、研究可能な問いに仕立て直すためには、文献検討、

ディスカッションを行きつ戻りつ進めていくプロセスが必要である。

筆者が透析導入患者の教育に携わっていた当時、病棟の看護師は、患者とその家族に対して自己管理の指導に力を入れていた。しかし自己管理の能力が高く社会復帰に意欲的だった患者が、医療者の予想に反して、体調の悪化や精神的不安定などから入退院を繰り返すということが少なくなかった。こうした経験から、筆者は入院中の患者の自己管理能力や家族らのサポートだけでは、退院後に患者が直面する問題を推し量ることができないと感じていた。また、自己管理の知識・技術が十分な患者がなぜ体調を悪化させてしまうのか、彼らの社会生活はサポートも十分期待できるのになぜ精神的に不安定な状態に陥ってしまうのだろうか、という疑問も生じた。彼らの退院後の生活状況を聞くと、社会生活に過剰適応しているのではないだろうか、病気だけに向き合っているのではないだろうかという推測もできた。つまり、透析患者が身体面だけでなく心理社会的課題にどのように対処するかが、その人らしい満足のある生活に影響を及ぼすのではないだろうか、という漠然とした仮説が生まれた。

こうした臨床経験からの問いを実証可能な問いにするために、現象を説明するのに適した理論的枠組みの探索に取りかかった。理論的枠組みとは、研究を支える理論的基盤であり、対象とする現象の見方のことである。

本研究の理論的枠組みには、シンボリック相互作用論(Blumer, 1969)の視点をもつ病みの軌跡理論(Corbin and Strauss, 1988)を適用した。これらの理論で

は、人は他者とのシンボルを通じた相互作用によって形成され、そのシンボルに基づいて行為を展開すると考えられている。こうした視点は、慢性病者の生活を外側からみるのではなく、内側からみることを重視している。

シンボリック相互作用論によると、慢性病者の内面では他者との共有された意味を取り入れる客我とその人固有の意味を創造する主我が相互作用して、アイデンティティが再構成されると考えられる。つまり慢性病者は病体験を意味づけ、これを指針として人生を新たに方向づける行為を展開し、生きがいを見出すと考えられる。病みの軌跡理論によると、こうした客我と主我の相互作用は、慢性病によって途切れた生活史に連続性を取り戻そうとする、生活史の仕事という概念で説明される。

また就労している慢性病者が社会生活に過剰適応するのを説明するためには、他者との共存場面における相互行為理論(Goffman, 1959)による見方も必要であった。この理論によると、職場など社会的状況のもとでの行為は、行為者自身についての何らかの情報をだれかに伝えており、この情報に意図的な操作を加えるとき演技の要素を含んでいる。つまり慢性病者は、職場などで自分がこれまでと変わらない能力があることを示すために、また病人として扱われないよう病気に対して世間で共有されている意味を踏まえて、症状をコントロールしたり療養法を悟られないような行為を展開すると説明される。

以上のように本研究の理論的枠組みには、シンボリック相互作用論を基盤として、慢性病者の生活史の見方に病みの軌跡理論を、また職場の対人関係の見方に共存場面における相互行為理論が適用された。

理論的枠組みの探索と併行して、透析患者の心理社会的問題に関する国内外の先行研究を検索した。先行研究では、透析導入後数年間における適応過程や病体験の意味を明らかにしたものの、透析生活への適応を予測する要因としてコーピングや信念の特徴を検討したものなどが目立った。前者は社会学、あるいは現象学や実存哲学を理論的前提にして面接法や観察法を用いており、後者はストレス・コーピング理論や保健信念モデルを概念枠組みにして質問紙法を用いていた。

透析導入後の心理社会的適応に関する研究では、心理社会的状態の段階的な特徴は検討されていたが、心理社会的対処はなぜ変化するのか、その影響要因などは明らかにされていなかった。ストレス・コーピング理論や保健信念モデルを用いた研究では、生活史と

いう文脈での心理社会的対処といったとらえ方ではなく、慢性という時間軸の影響は無視されていた。慢性病看護では、個人の人生を尊重した看護介入を吟味することが求められ、生活史に関する情報が不可欠である。したがって慢性病に伴う心理社会的問題は、長期的な影響を内在した生活史の問題としてとらえ直すことが必要である。

これら文献検討の結果、臨床経験からの問いは、透析をしながら働いている男性の病体験に基づいた役割や対人関係の調整が、その人らしい満足のある生活に影響を及ぼすかという問いに修正された。

3. 概念枠組みの作成

概念枠組みは、複雑な現象をどのような視点(理論的基盤)でみるのか、どれくらいの視野(範囲)でみるのか、そして現象を説明する概念をどのように定義づけ、概念間の関係をどのように仮定するのかを示すものである。

本研究の概念枠組みは、Corbin and Strauss(1988)の病みの軌跡理論に基づいて作成した(内田, 2002)。すなわち透析をしながら働く中年期男性の心理社会的課題への対処が、その人らしい満足のある生活にどのような影響を及ぼすのかを、生きがいと生活史の仕事の関係からとらえることとした。概念枠組みに含まれる概念は、次のように定義した。

生活史の仕事とは、透析者が病の体験を自己に内在化していく過程において、病に新たな意味を見だし、その意味に基づいて人生を新たに方向づけようと生活史を編み直すことをさしている。つまり生活史の仕事は、病の体験への意味づけという認知的反応と、生活史の編み直しという行為から構成され、生きがいに影響すると仮定した。

病の意味づけとは、透析者がその人の生活史に病の及ぼした影響を振り返り、また将来の成り行きをある程度見通して、病体験に自分なりの意味を見いだすことである。

生活史の編み直しとは、透析者が身体状態や療養法が社会的役割や対人関係に及ぼす影響を調整する行為である。

生きがいとは、その人の生きる目的や意味が満たされている状態である。

4. 研究方法

研究方法は、概念枠組みに示された概念間の関係を実証するために、道具を工夫するプロセスである。

研究方法には、研究デザイン、対象の母集団、標本抽出法、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法などが含まれる。

まず本研究の概念枠組みで仮定した概念間の関係に関する実証的研究はみあたらなかったため、本研究は量的アプローチによる横断的相関関係デザインとした(内田, 1999)。

次に研究対象となる母集団の条件を決める際は、研究課題の特徴を備えている母集団の属性をフィールドワークや文献検討から明らかにしておくことが必要である。本研究対象の母集団の特定にあたっては、慢性病による様々な制約の下で自己の社会的役割をいかに果たすかという、矛盾や葛藤の多い生活上の課題に度々直面する可能性の高い対象を検討した。その結果、本研究の対象は、透析導入後半年以上経過し何らかの職に就いている満35～56歳の男性で、かつ研究の主旨説明に対して同意が得られた者とした。しかし、こうした母集団の実態は明らかにされておらず、対象者の存在は医療機関を通してしか把握できなかったため、無作為抽出はできず非確率便宜的抽出を行った。この点で、研究の対象者が母集団を反映した集団であるかを検討し、結果を一般化する上での影響を見積もる必要がある。

データ収集法は、3つの尺度とフェイスシートからなる自記式質問紙を用いて調査を実施した。生活史的仕事は(1)生活史の編み直し、(2)病の意味づけ、の2つの尺度、生きがいは(3)PIL-A尺度、個人特性は(4)フェイスシートを用いて測定した。

生活史の編み直し尺度は、応用可能な既存の尺度がなかったため、本研究のために筆者が関連文献と面接調査を基に独自に作成した。

病の意味づけ尺度は、米国の癌患者用に開発された The Constructed Meaning Scale を、筆者が本研究の透析患者用に翻訳修正して作成した。原尺度は象徴的相互作用論に基づいており、生命を脅かす病への取り組みから個人が見出した意味を測定することを目的としている。尺度開発者の使用許可を得た上で著者が翻訳し、米国で看護学の学位を取得した研究者及び異文化間調査研究に精通している研究者計6名の協力を得て翻訳原案の修正検討を行った。

生きがい尺度は、Frankl の理論に基づいて Crumbaughらが開発した尺度で、生きる意味が見いだせず無意味感に悩む状態を、実存的空虚あるいは実存的欲求不満と呼びその程度を測定するものである。本研究では日本で標準化された邦訳版PIL-A尺度を用い

た。

フェイスシートは、先行研究を参考にして、慢性病を持つ生活史に関する客観的・主観的指標を含めて作成した。

データの分析方法は、まず全変数について記述統計量を求め、3つの尺度と個人特性の関係を検討するために、相関係数及び一元配置分散分析を行い、次いで生きがいを基準変数として階層的重回帰分析を行った。

5. おわりに

臨床の看護研究において、問題の明確化よりも研究方法が先行する傾向がみられたことから、概念枠組みの作成プロセスについて筆者の拙い実例をもとに説明した。

看護実践を通して生まれた疑問を研究するには、既存の枠にとらわれない批判的な思考方法を訓練することが必要である。そのためには、その日の看護実践のエピソードを振り返り、疑問はないか、同僚とディスカッションすることが有用である。またなかなか答えがみつからないからといってすぐに既存の方法で決着をつけるのではなく、いろいろな可能性に対して研究者の視野をオープンに保ちながら研究指導者などに相談したり文献にあたることが重要である。概念枠組みの作成は、現象を見る枠組みの妥当性を検討することであるが、同時に研究者の視点を明らかにする作業となり、自身の看護観を問い直す作業ともなる。研究の概念枠組みの作成は容易ではないが、これが明確であれば既存の理論を鍛える資料を提供し、先行研究との比較検討や看護の知識体系への位置づけがより可能になると考える。

参考文献

- Blumer, H. (1969). symbolic interactionism perspective and method. New Jersey: Prentice-Hall, Inc.; 後藤將之訳 (1991). シンボリック相互作用論. 東京: 勁草書房.
- Corbin, JM., Strauss, AL. (1988). Unending Work and Care. San Francisco: Jossey Bass Inc.
- Goffman, E. (1959). The presentation of self in everyday life. New York: Doubleday & Company, Inc.; 石原毅訳 (1974). 行為と演技 - 日常生活における自己呈示. 東京: 誠信書房.

中西睦子(1988). 慢性病看護ケアの概念枠組みの検討.
日本看護科学学会誌, 8(2), 48-72.

Polit, DF., Hungler, BP. (1987). Nursing research:
principles and methods, third edition: Philadelphia, J. B.
Lippincott Company.; 近藤潤子監訳(1994). 看護研究
原理と方法. 東京: 医学書院.

佐藤郁哉(2002). フィールドワークの技法. 東京: 新
曜社.

内田雅子(1999). 透析をしながら働く中年期男性にお
ける生活史の編み直し尺度の開発. 日本看護科学会
誌, 19(1), 60-70.

内田雅子(2002). 透析をしながら働く中年期男性にお
ける生きがいと生活史的仕事の関係. 看護研究,
35(5), 47-61.

著者連絡先

〒 870-1201
大分県野津原町廻栖野 2944-9
大分県立看護科学大学 成人・老人看護学研究室
内田 雅子
uchida@oita-nhs.ac.jp